

CA 2E

リリース ノート

r8.7.00



This Documentation, which includes embedded help systems and electronically distributed materials, (hereinafter referred to as the "Documentation") is for your informational purposes only and is subject to change or withdrawal by CA at any time. This Documentation is proprietary information of CA and may not be copied, transferred, reproduced, disclosed, modified or duplicated, in whole or in part, without the prior written consent of CA.

If you are a licensed user of the software product(s) addressed in the Documentation, you may print or otherwise make available a reasonable number of copies of the Documentation for internal use by you and your employees in connection with that software, provided that all CA copyright notices and legends are affixed to each reproduced copy.

The right to print or otherwise make available copies of the Documentation is limited to the period during which the applicable license for such software remains in full force and effect. Should the license terminate for any reason, it is your responsibility to certify in writing to CA that all copies and partial copies of the Documentation have been returned to CA or destroyed.

TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW, CA PROVIDES THIS DOCUMENTATION "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, INCLUDING WITHOUT LIMITATION, ANY IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, OR NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT WILL CA BE LIABLE TO YOU OR ANY THIRD PARTY FOR ANY LOSS OR DAMAGE, DIRECT OR INDIRECT, FROM THE USE OF THIS DOCUMENTATION, INCLUDING WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS, LOST INVESTMENT, BUSINESS INTERRUPTION, GOODWILL, OR LOST DATA, EVEN IF CA IS EXPRESSLY ADVISED IN ADVANCE OF THE POSSIBILITY OF SUCH LOSS OR DAMAGE.

The use of any software product referenced in the Documentation is governed by the applicable license agreement and such license agreement is not modified in any way by the terms of this notice.

The manufacturer of this Documentation is CA.

Provided with "Restricted Rights." Use, duplication or disclosure by the United States Government is subject to the restrictions set forth in FAR Sections 12.212, 52.227-14, and 52.227-19(c)(1) - (2) and DFARS Section 252.227-7014(b)(3), as applicable, or their successors.

Copyright c 2014 CA. All rights reserved. All trademarks, trade names, service marks, and logos referenced herein belong to their respective companies.

CA への連絡先

テクニカル サポートへのお問い合わせ

当社製品を便利にお使いいただくために、CA では個人、SOHO、および企業向け各製品で必要な情報にアクセスするためのサイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) を提供しています。

目 次

目 次	5
第 1 章: 機能強化	7
アクション・ダイアグラム・コール・プロンプトの外部名の使用	7
SQL レコード・レベル・アクセスの追加	8
DDL データベースへの RLA アクセスの追加	8
DDL の実装	8
ハードコード化されたスキーマ名なしでの SQL/DDL の生成の追加	10
RCDFMT キーワードがある SQL/DDL インデックスのための LVLCHK (*YES) の追加	11
コマンドキーの処理 (マウスクリックと打鍵)	11
デバイス・ユーザー・ソースの代入変数	12
SQL/DDL のための意味のある名前	12
有効なシステム名によるモデル・ファイルの意味のある名前	13
テーブル、またはフィールドの意味のある名前の制御	14
長い名前のシナリオ	15
アクション・ダイアグラム・ステートメントのリフレッシュ	16
DDL インデックスの SELECT/OMIT (選択/除外)	16
NLL パラメーターの表示制御	17
コントロール・データのない場合のトリガー・エラー処理	19
YCPYMDLOB] ターゲット・モデルのロックを上書きする新しいパラメーター	20
YCVTSPLF の柔軟性	20
DDL に対して RLA を生成するオプション	20
DDL の実装での F7 = 補助	21
DDL オブジェクトの CM 促進のサポート (DDS からの切り替えなし)	21
DDL オブジェクトの CM 促進のサポート (DDS から DDL へ変換)	21
第 2 章: 最新版のドキュメント	23
ドキュメントの変更	23
End-to-End (E2E) Bookshelf	23
第 3 章: 公開修正	25
2E	25
CA 2E TOOLKIT	39
Web Option	41

第 4 章: 既知の問題

43

2E	43
Web Option	44
HTML Bookshelf 検索結果	46

第 1 章: 機能強化

本章では、CA 2E r8.7 に含まれる機能強化について説明します。

[アクション・ダイアグラム・コール・プロンプトの外部名の使用](#) (7 ページ参照)

[SQL レコード・レベル・アクセスの追加](#) (8 ページ参照)

[DDL データベースへの RLA アクセスの追加](#) (8 ページ参照)

[ハードコード化されたスキーマ名なしでの SQL/DDL の生成の追加](#) (10 ページ参照)

[RCDFMT キーワードがある SQL/DDL インデックスのための LVLCHK \(*YES\) の追加](#)
(11 ページ参照)

[コマンドキーの処理 \(マウスクリックと打鍵\)](#) (11 ページ参照)

[デバイス・ユーザー・ソースの代入変数](#) (12 ページ参照)

[SQL/DDL のための意味のある名前](#) (12 ページ参照)

[アクション・ダイアグラム・ステートメントのリフレッシュ](#) (16 ページ参照)

[DDL インデックスの SELECT/OMIT \(選択/除外\)](#) (16 ページ参照)

[NLL パラメーターの表示制御](#) (17 ページ参照)

[コントロール・データのない場合のトリガー・エラー処理](#) (19 ページ参照)

[YCPYMDLOBJ ターゲット・モデルのロックを上書きする新しいパラメーター](#)
(20 ページ参照)

[YCVTSPFLF の柔軟性](#) (20 ページ参照)

[DDL に対して RLA を生成するオプション](#) (20 ページ参照)

[DDL の実装での F7 = 補助](#) (21 ページ参照)

[DDL オブジェクトの CM 促進のサポート \(DDS からの切り替えなし\)](#) (21 ページ参照)

[DDL オブジェクトの CM 促進のサポート \(DDS から DDL へ変換\)](#) (21 ページ参照)

アクション・ダイアグラム・コール・プロンプトの外部名の使用

CA 2E は、外部またはプログラム・メンバーナー名を指定するファンクション呼び出しをアクション・ダイアグラムに挿入できます。

以下のドキュメントはこの機能のために更新されました。

- Building Applications

SQL レコード・レベル・アクセスの追加

SQL データベース・ファイルを生成する場合、SQL データベース・ファイルに RLA (レコードレベルのアクセス) を使用してアクセスできるように、RCDFMT キーワードを含めるオプションがあります。この機能は、モデル値 YSQLFMT を使用して制御します。RCDFMT を使用するためにデータベース・ファイルを再生成と再コンパイルする前に、SQL データベースに対して正しく機能している既存のファンクションを再コンパイルする必要はありません。

以下のドキュメントはこの機能のために更新されました。

- Administration Guide
- Building Access Paths
- Building Applications
- Command Reference Guide

DDL データベースへの RLA アクセスの追加

DDL の実装

既存の DDS データベースを DDL データベースに変更し、DDS データベースを使用して構築された RLA ファンクションを再生成・再コンパイルなしに使い続けたい場合に、生成モードを使用するためのオプションがあります。以下がアクセス・パスの生成モードをセットするオプションです。

L(L-DDL) または M(M-MDLVAL モデル値 YDBFGEN に *DDL をセットする)

注:

- 生成モードが *DDL の場合、モデル値 YSQLFMT の値に関係なく RCDFMT は生成されます。
- 現在の *DDL の実装は、データ・アクセス方式として *TABLE のみサポートします。
- 特定のカラム名で SQL/DDL を生成する場合は、生成に失敗し、エラーメッセージが返されます。

例: 「2nd_Order」のような数値から始めているフィールドがある場合、以下のエラーでこのようなカラム名でのテーブルの生成に失敗します。

「SQL0103-数値定数 2nd_Order が無効です。」

しかし、同じフィールド名による DDS の実装は、成功します。

制約:

- IBM 制約のために、*ISO フォーマット (DT#) の日付フィールドを含んでいる DDS データベースが DDL データベースに変わるととき、この日付フィールドはジョブの日付形式に変わります。

そのため、データベースを DDS から DDL に変更した後に RLA ファンクションが実行される場合は 10 進データ・エラーが発生します。

注: この問題を解決するには、以下の PTF について IBM 社にお問い合わせください。

- SI51190 for V7R1
- SI51290 for V6R1
- 現在の DDL 生成モードの実装は、以下の場合に無効です。
 - 仮想フィールドがあるアクセス・パス
 - SPN アクセス・パス
 - QRY アクセス・パス
 - 複数メンバーのファイル

仮想フィールド、SPN と QRY アクセス・パスの回避方法:

以前の生成モードが *DDS の場合、*DDS に戻してからアクセス・パスを再生成してください。このアクセス・パスを使用するファンクションを再生成する必要はありません。SQL タイプのデータベースを使用したい場合は、*SQL 生成モードを使用しているアクセス・パスを再生成してください。このアクセス・パスを使用しているファンクションは再生成する必要があります。

複数メンバーファイルの回避方法:

アクセス・パスに 2 つ以上のメンバーが必要な場合、*DDS 生成モードに戻してください。

注: あらかじめアクセス・パスにコンパイラーの上書きパラメーター MAXMBR と共に定義されていた *DDS を *DDL に変更したい場合、生成モードを *DDS に戻してコンパイラーの上書きパラメーターを削除しなければなりません。その後、生成モードを *DDL に戻します。

- 上記の制約シナリオの DDL ベースのアクセス・パスを生成、コンパイルする場合、ソースは生成されません。また、対応するエントリーは、ジョブリストに追加されません。

以下のドキュメントはこの機能のために更新されました。

- Administration Guide
- Building Access Paths
- Building Applications
- Command Reference Guide
- Generating and Implementing Applications
- Implementation Guide
- リリース ノート
- Tutorial

ハードコード化されたスキーマ名なしでの SQL/DDL の生成の追加

CA 2E で SQL/DDL データベース ファイルを生成する場合、ハードコード化されたスキーマ名を含まない SQL/DDL データベースを生成するオプションがあります。この機能は、モデル値 YSQLCOL を使用して制御されます。この機能を使用すると、生成されたデータベースオブジェクトは、要求通りの SQL コレクション、またはライブラリ（モデル値 YSQLLIB に指定）にコンパイルすることができます。これにより、展開環境が簡略化され、オブジェクトが異なる SQL コレクション/ライブラリへ再コンパイルが必要な場合に、既に生成したソースを変更することなく操作環境のサポートを行います。

コマンド YEXCSQL は、これらの変更要求を満たすために修正されました。

制約:

- 以前から、2E で作成された SQL オブジェクトをコンパイルすることによって促進できないという、SYNON/CM での制約があります。回避方法は、オブジェクトを 3GL オブジェクトとしてコンパイルなしに促進（MOVE）することです。

注: 以前のターゲット SQL コレクションから標準ライブラリーにオブジェクトを作成するため SYNON/CM 環境の変更が実行される場合、ターゲット環境の SYNON/CM リポジトリは、リフレッシュしなくてはならないかもしれません。

以下のドキュメントはこの機能のために更新されました。

- Administration Guide
- Building Access Paths
- Building Applications
- Command Reference Guide
- Implementation Guide

RCDFMT キーワードがある SQL/DDL インデックスのための LVLCHK (*YES)の追加

CA 2E で RCDFMT キーワードがある SQL/DDL データベースを作成する場合、全ての SQL/DDL のアーティファクトを LVLCHK (*YES) で作成することができます。RCDFMT キーワードに関係なく、SQL/DDL のテーブルとビューは省略時に LVLCHK (*YES) で作成されます。しかし、SQL/DDL のインデックスは RCDFMT キーワードが生成された場合に LVLCHK (*NO) で作成されます。新しいモデル値 YLVLCHK は、SQL/DDL のインデックスも LVLCHK (*YES) で生成することを可能にするために導入されました。これは、データベースを変更する場合に RLA アクセスからのデータ破壊からファイルが保護されることを確実にします。

以下のドキュメントはこの機能のために更新されました。

- Administration Guide
- Building Access Paths
- Building Applications

コマンドキーの処理(マウスクリックと打鍵)

CA 2E Web オプションは、下記のブラウザを立ち上げた際にマウスクリックと打鍵を使用したブラウザ インターフェースへのコマンドキーのアクセスを提供します。

- Internet Explorer 8 と 9
- Safari 6 以降 (Mac)
- Safari 5.1.7 以降 (Windows)
- Chrome 24.0 以降
- Firefox 19.0 以降

注:

- Internet Explorer 8 と 9 は、唯一の公式にサポートされたブラウザです。最新情報は、[CA 2E 製品ページ](#)の互換性マトリックスを参照してください。
- YMLSSYNRFP 構文ファイルは Chrome、Firefox と Safari をサポートするために変更されました。変更を有効にするには、これらのブラウザで使用したいファンクション構造を再生成します。

この情報は以下のドキュメントでも文書化されています。

- Building Applications

デバイス・ユーザー・ソースの代入変数

CA 2E はデータ記述仕様 (DDS) のユーザー・ソースに適用することができる追加代入変数一式を提供します。DDS のための #*LIB、#*FILE、#*MBR、#*TYPE と #*ENT の代入変数は、使用可能です。

以下のドキュメントはこの機能のために更新されました。

- Building Applications

SQL/DDL のための意味のある名前

CA 2E は、現在、インプレメンテーションまたは切り詰められたモデル名の代わりに意味のある名前で SQL または DDL データベースを構築することができます。この機能は、DB2 や Web Query のような外部インターフェースで働くことを容易にします。

モデル値 YSQLVNM は、SQL または DDL のための意味のある名前への移行を制御します。モデル値 YSQLVNM についての詳細は、『CA 2E Administration Guide』の「YSQLVNM」を参照してください。

注: SQL または DDL データベースのための意味のある名前への移行方法についての詳細は、『DDL データベースのための意味のある名前への移行方法』を参照してください。

制約:

- CA 2E のコピー処理全体で制約があります。テーブルを異なる命名規則 (*SQL、*DDS、*LNG、*LNF と *LNT) で再生成/再コンパイルする場合、コピー処理はいくつかのケースで失敗するかもしれません。

次の表は、どのコピー処理が機能するかを示しています。

	DDS	SQL	LNG	LNF	LNT
DDS	機能する	機能しない	機能する	機能する	機能する
SQL	機能しない	機能しない	機能しない	機能しない	機能しない
LNG	機能する	機能しない	機能する	機能する	機能する
LNF	機能する	機能しない	機能する	機能する	機能する
LNT	機能する	機能しない	機能する	機能する	機能する

注:

- YSQLVNM が *DDS または *SQL で作成されるテーブルとビューは考慮してください。YSQLVNM が *LNG に変更され、テーブルとビューの再生成/再コンパイルがされる場合、*DDS または *SQL の命名規則で作成されたテーブルとビューは削除され、新たにテーブルとビューが作成されます。
- DDL データベースへの RLA コードをファンクションに生成または再生成するために、モデル値 YSQLVNM に *DDS または *LNG または *LNT または *LNF をセットし、モデル値 YDDLDBA に *RLA をセットします。
- 日本語のようなダブルバイト文字セット(DBCS)言語には適用できません。

以下のドキュメントはこの機能のために更新されました。

- Administration Guide
- Building Access Paths
- Building Applications
- Command Reference Guide

有効なシステム名によるモデル・ファイルの意味のある名前

有効なシステム名（10 バイト以下）のテーブルにおいて、長い名前の実行名は機能しません。これは、テーブル名とシステム名のそれぞれが異なることを認めていない IBM i 制限によるもので、もし両方が同じ名前の場合は有効なシステム名となります。

この制限は、ファイル・レベル・オプション、ファイルの詳細画面の「SQL のネーミング拡張」を導入することで対処されます。

以下の 3 つの条件を満たしている場合に：

- ファイルの詳細画面の SQL のネーミング拡張オプションを Y に変更します。
- モデル値 YSQLVNM に *LNG または *LNT をセットします。
- モデルのファイル名は有効なシステム名にします。

その結果、テーブルは接尾辞「_TABLE」を付けて生成され、テーブル名が 10 文字以上になります。

例:

- テーブル CUSTOMER は、2E の実行名と同様に CUSTOMER_TABLE として生成されます。
- テーブル CUST は、2E の実行名と同様に CUST_TABLE として生成されます。
- テーブル C は、2E の実行名と同様に C_TABLE として生成されます。

しかし、テーブルが有効なシステム名（10 バイト以下）の場合、モデル値 YSQLVNM に *LNG または *LNT をセットし、そしてファイルの詳細画面の SQL のネーミング拡張オプションに N をセットして生成すると、以下のエラーメッセージがコードに生成されます。

YSQLVNM の *LNG または *LNT はこのテーブルのために許可されていません。

『Administration Guide』の「Long Name Scenarios」章を参照してください。

以下のドキュメントはこの機能のために更新されました。

- Building Access Paths
- Building Applications
- Defining a Data Model Guide
- Generating and Implementing Applications
- Tutorial Guide

テーブル、またはフィールドの意味のある名前の制御

CA 2E は、テーブルとフィールドのどちらか一方または両方を意味のある名前で生成できます。環境要件次第で一方または両方を意味のある名前で生成、またはどちらも意味のある名前で生成しないように柔軟に選べます。

モデル値 YSQLVNM の新しい 2 つの VALUE は、以下の通りこの機能のために導入されました。

*LNF

フィールドのみ意味のある名前で生成します。

*LNT

テーブルのみ意味のある名前で生成します。

以下のドキュメントはこの機能のために更新されました。

- Building Access Paths
- Building Applications
- Defining a Data Model Guide
- Generating and Implementing Applications
- Tutorial Guide

長い名前のシナリオ

以下の表は、以下の 3 つの要素とそれに付随するファンクションの影響に基づいてテーブルが 2E で生成される方法を表しています。

1. モデル値 YSQLVNM
2. 生成されるモデル・ファイル名が、有効なシステム名であるかどうか
3. ファイル・レベル・オプションの「SQL のネーミング拡張」のフラグ設定が Y または N

SQL ネーミング 拡張	YSQLVNM の値	モデル・ファ イル名	テーブル名	テーブル 実行名	テーブル ルが使 用でき る実行 名	テーブル 名の RLA	テーブル名 の SQL ファ ンクションの 使用	ネーミン グ拡張後 のファン クション の再コン パイル
Y	*LNG	Product	Product_TABLE	UUA2REP	Y	UUA2REP	UUA2REP	N
N	*LNG	Product	Product	UUA2REP	N	UUA2REP	UUA2REP	N/A (*)
Y	*LNG	Purchased_Products	Purchased_Products	UUB2REP	Y	UUB2REP	UUB2REP	N
N	*LNG	Purchased_Products	Purchased_Products	UUB2REP	Y	UUB2REP	UUB2REP	N
Y/N	*SQL	Product	Product	UUA2REP	N	UUA2REP	Product	N
Y/N	*SQL	Purchased_Products	Purchased_Products	N/A	N	UUA2REP	Purchased_Products	N
Y/N	*DDS	Product	N/A	UUA2REP	Y	UUA2REP	UUA2REP	N
Y/N	*LNF	Product	UUA2REP	UUA2REP	Y	UUA2REP	UUA2REP	N
Y/N	*LNF	Purchased_Products	UUB2REP	UUB2REP	Y	UUB2REP	UUB2REP	N
Y	*LNT	Product	Product_TABLE	UUA2REP	Y	UUA2REP	UUA2REP	N
N	*LNT	Product	Product	UUA2REP	N	UUA2REP	UUA2REP	N/A (*)
Y/N	*LNT	Purchased_Products	Purchased_Products	UUB2REP	Y	UUB2REP	UUB2REP	N

(*) ACP ソースで生成する E* ライン

例:

モデル値 YSQLVNM に *LNG または *LNT がセットされ、モデル・ファイル名が「Product」、ファイル・レベル・オプションの場合、SQL ネーミング拡張フラグに Y をセットすると、テーブルは接尾辞「_TABLE」を付けて生成されます。（この場合、テーブルは「Product_TABLE」という名前で生成されます。）テーブルは、実行名 UUA2REP を用いてアクセスも可能です。SQL ネーミング拡張フラグが N から Y に変更される場合、そのアクセス パス（テーブル、ビューなど）に作成されたファンクションをテーブル/ビューの実行名を使用して再コンパイルする必要はありません。

アクション・ダイアグラム・ステートメントのリフレッシュ

CA 2E は個別に Call ステートメントの詳細をリフレッシュするのではなく、アクション・ダイアグラムを開いた時にアクション・ダイアグラム・ステートメントをリフレッシュします。新しい制御モデル値 YRFSACT が追加されました。

以下のドキュメントはこの機能のために更新されました。

- Building Access Paths
- Building Applications
- Command Reference Guide

DDL インデックスの SELECT/OMIT(選択/除外)

既存の DDL データベースを再生成する場合、SELECT/OMIT (選択/除外) 基準を WHERE 条項として DDL インデックスに生成します。既存の RLA ファンクションは DDL データベースを使用し、DDS データベースにアクセスする RLA ファンクションの同じレコードにアクセスできます。

静的または動的「SELECT/OMIT (選択/除外) 基準の許可」の指定に関係なく SELECT/OMIT (選択/除外) 基準は DDL インデックスに埋め込まれます。ファンクションを再生成、再コンパイルする必要はありません。SELECT/OMIT (選択/除外) 基準は、DDL がサポートする全てのアクセス・パスのために生成されます。

注: SELECT/OMIT (選択/除外) 基準は、RTV と RSQ アクセス・パスの実装をサポートします。

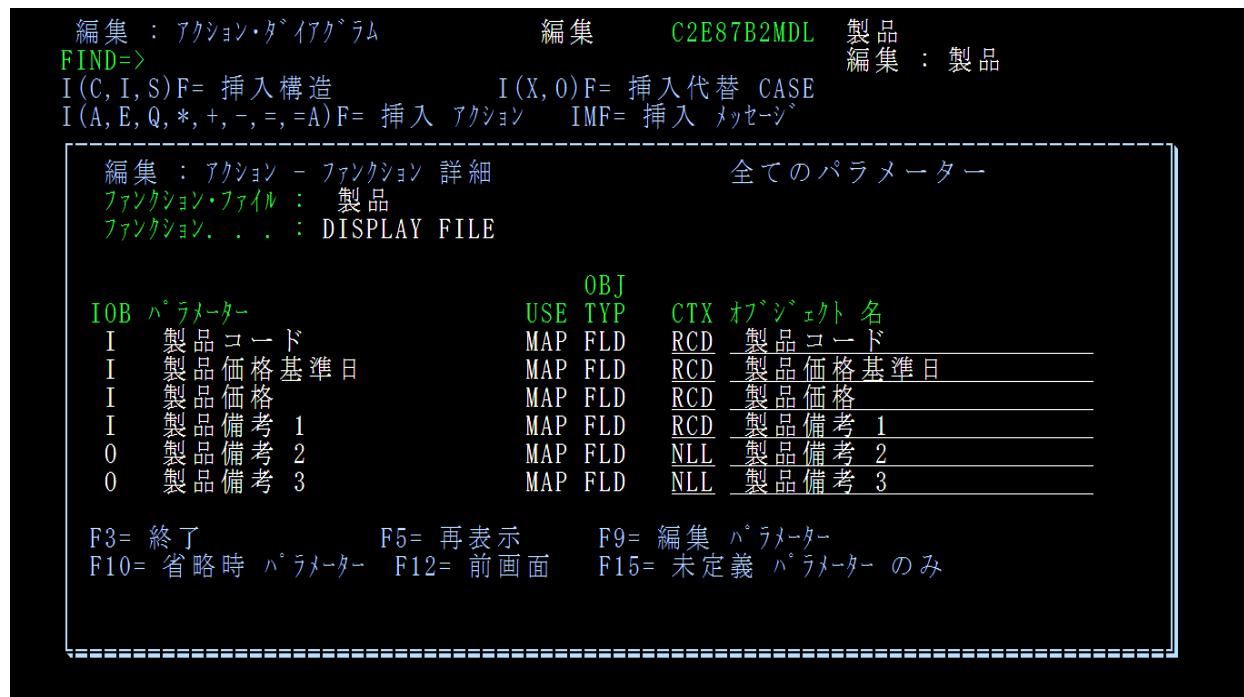
以下のドキュメントはこの機能のために更新されました。

- Building Access Paths

NLL パラメーターの表示制御

CA 2E は、NLL パラメーターの表示を制御します。以前はアクション・ダイアグラム詳細画面で F15 を押下すると未定義のパラメーターを表示することができました。現在は、ファンクションキーの F15 は、全てのパラメーターの表示から未定義のパラメーターの表示、非 NLL パラメーターの表示から再度全てのパラメーターの表示に切り替えるために強化されました。F15 を押下するたびに画面タイトルは変わり、対応するコマンドキーも変わります。

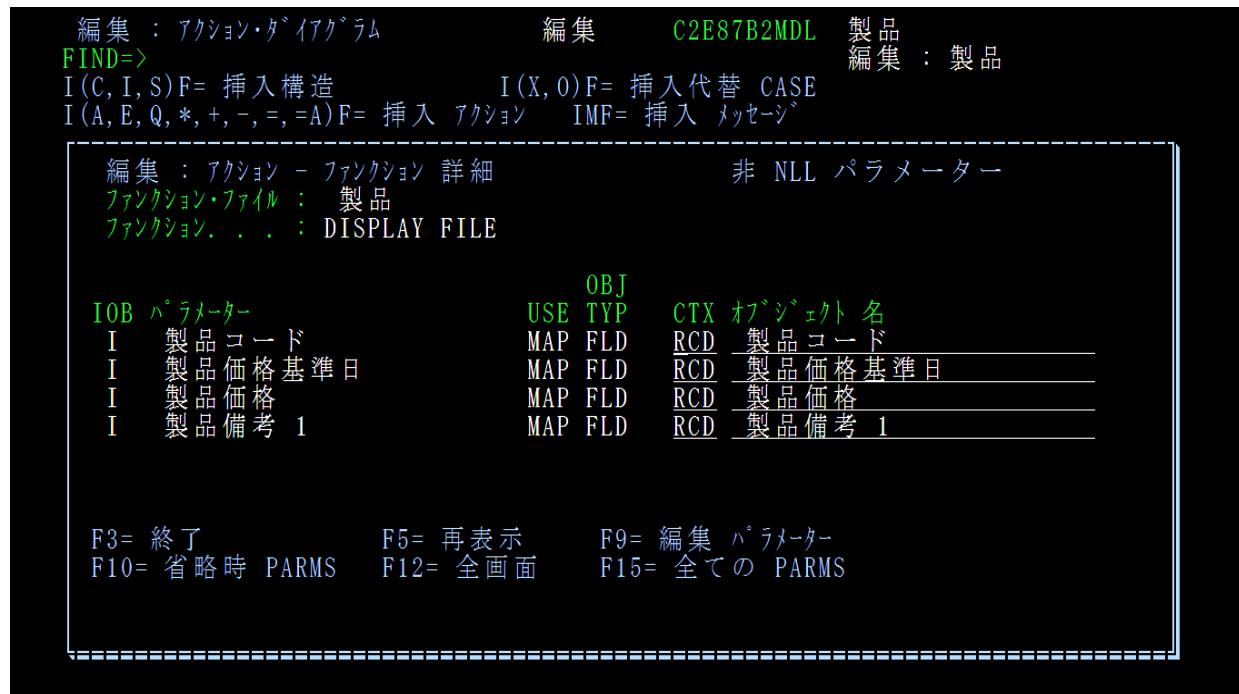
以下は強化された画面の初期表示です。



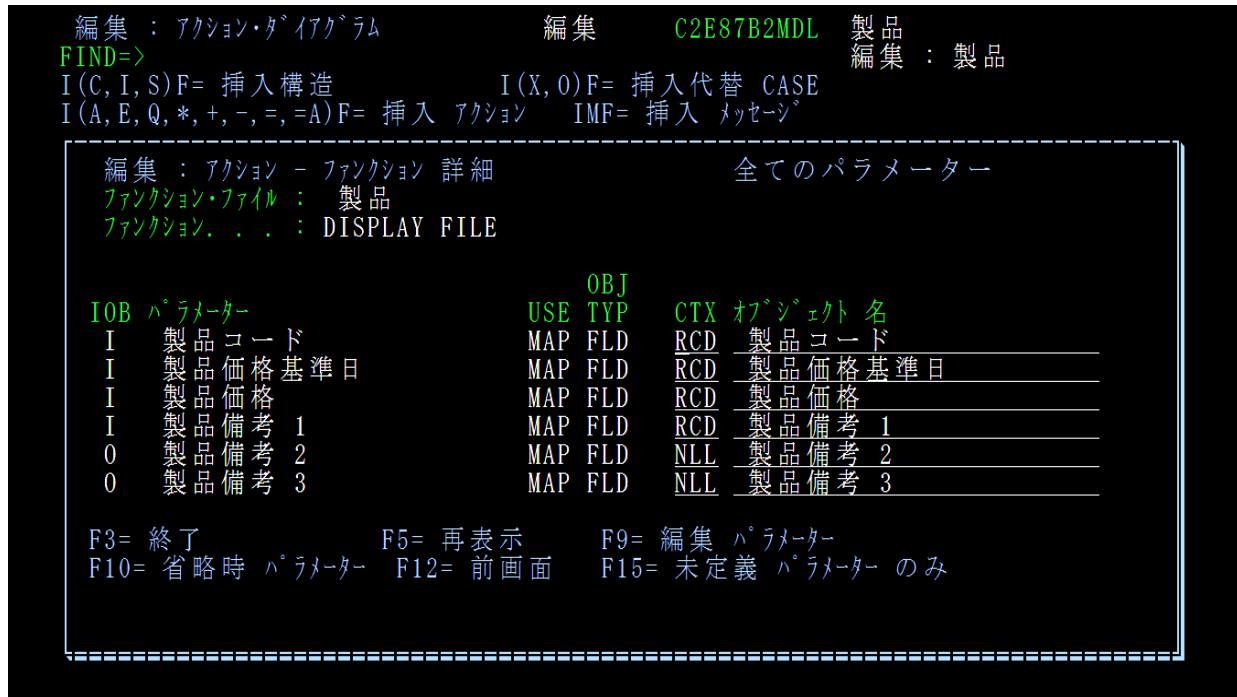
以下は F15 押下後の画面です。



以下は再度 F15 を押下した後の画面です。



以下はもう一度 F15 を押下した後の画面です。初期時の全てのパラメーター表示に切り替わります。



注: F15 を押している間は、その変更は発生しません。アクションへの変更を確認するには、実行キーを押します。

以下のドキュメントはこの機能のために更新されました。

- ## ■ Building Applications

コントロール・データのない場合のトリガー・エラー処理

トリガーが CA 2E トリガー・ルーター YTRIGGER をトリガー・プログラムとして指定するデータベースファイルに存在するが、トリガー・イベントとして指定するトリガー制御ファイルが存在しない状況を扱うために、機能は CA 2E トリガー・ルーターに追加されました。

以下のドキュメントはこの機能のために更新されました。

- ## ■ Building Applications

YCPYMDLOBJ ターゲット・モデルのロックを上書きする新しいパラメーター

CA 2E は 'to' オブジェクトに関するユーザー定義の永久ロックがあるオブジェクトをコピーする機能を提供します。新しいパラメーター **OVRTGTLCK** は、コマンド **YCPYMDLOBJ** がターゲット・モデルで永久ロックを上書きするために提供されます。

以下のドキュメントはこの機能のために更新されました。

- Command Reference Guide

YCVTSPLF の柔軟性

CA 2E または CA 2E Toolkit がインストールまたはライセンスされていないコンピューターで YCVTSPLF を使用することができます。つまり、2E で生成されたアプリケーション実行時に YCVTSPLF の機能を使用することができます。CA 2E Toolkit の新しいコマンド **YDUPTKOBJ** は、このリリースで導入されました。このコマンドは、ターゲット・ライブラリーへオブジェクトをコピーすることができます。（YCVTSPLF を必要とします。）

以下のドキュメントはこの機能のために更新されました。

- Command Reference Guide

DDL に対して RLA を生成するオプション

DDS から DDL データベースへ切り替え後であっても、DDS コードに対して生成された同じ RLA コードでファンクションを生成（再生成）するためのオプションを提供します。このオプションでは、SQL LIKE アクセスに切り替わっているファンクション・ソースのリスクと健全な変更を導入することなく DDS から DDL データベースに変更後のファンクションを修正、再生成することができます。この機能は、モデル値 **YDDLDBA** を使用してコントロールされます。モデル値 **YDDLDBA** の詳細については、『Building Applications』ガイドの「Model Values Used in Building Functions」章を参照してください。

以下のドキュメントはこの機能のために更新されました。

- Administration Guide
- Building Access Path Guide
- Building Applications Guide
- Command Reference Guide

DDL の実装での F7 = 補助

ビューが DDL ファイル・タイプとして作成されないので、補助装置は DDL タイプ・ファイルに適用されず、ソース・メンバー名と同じ名前のインデックスのみ作成されます。F7 = 補助 は、DDL の実装に適用できません。

以下のドキュメントはこの機能のために更新されました。

- Administration Guide
- Building Access Path Guide

DDL オブジェクトの CM 促進のサポート(DDS からの切り替えなし)

CA 2E と CM で DDL ベースのオブジェクトを促進できます。CM は SQL ベースのアクセス・パスのための「コンパイルによる促進」をサポートしません。それらを促進する唯一の方法は、「3GL オブジェクトの移動による促進」です。DDL 促進機能への新しい DDL は、この同じプロセスを踏みます。

促進要求作成の間、DDL テーブルは YSQLPF オブジェクトコードを利用し、DDL インデックスは YSQLLF オブジェクトコードを利用します。

注: DDL 促進機能の DDL は CA 2E リリース 8.7 と Implementer 11.0 のみで利用可能です。新しい機能を使用するために、既存の製品セットアップを CA 2E リリース 8.7 と Implementer 11.0 にアップグレードさせてください。

制約:

- データベースが YSQLVNM = *SQL で実装される場合、*SQL/*DDL の生成モードに関係なく「物理ファイル」/「テーブル」のアクセス・パスの促進は成功しません。

以下のドキュメントはこの機能のために更新されました。

- 互換性マトリックス

注: DDL ベース オブジェクトの CM 促進の詳細は、Implementer 11.0 のドキュメントを参照してください。

DDL オブジェクトの CM 促進のサポート(DDS から DDL へ変換)

CA 2E と CM は、*DDS の PF / LF をチェックアウトし、それらを *DDL のテーブル / インデックスに変換して新しい *DDL オブジェクトをプロダクションに促進できます。*DDL のテーブル / インデックスをチェックアウトすることができ、それらを *DDS の PF / LF に変換して *DDL オブジェクトをプロダクションに促進できます。CM は SQL ベースのアクセス・パスのための「コンパイルによる促進」をサポートしません。それらを促進する唯一の方法は、「3GL オブジェクトの移動による促進」です。それゆえ、*DDL オブジェクトの促進はこの同様のプロセスを踏みます。

*DDS から *DDL / *DDL から *DDS ベース オブジェクトの CM 促進の詳細は、Implementer 11.0 パッチ 948724 のドキュメントを参照してください。

<https://support.ptc.com/appserver/cs/view/solution.jsp?n=CS176520>

注: 促進機能間の *DDS から *DDL / *DDL から *DDS への変換は、CA 2E リリース 8.7 と Implementer 11.0 + パッチ 948724 のみで利用可能です。

制約:

- *DDS から *DDL / *DDL から *DDS に変換を試みる場合、同じオブジェクトライブラリに *DDS / *DDL オブジェクトを生成する必要があります。
- 新しい CM の機能は *DDS から *DDL / *DDL から *DDS への変換の要求を満たすのみです。*DDS から *SQL / *SQL から *DDS への変換はサポートされません。
*DDS から *SQL / *SQL から *DDS への変換を実行しないことを推奨します。

以下のドキュメントはこの機能のために更新されました。

- 互換性マトリックス
- Generating and Implementing Applications

第 2 章: 最新版のドキュメント

本節の題目

[ドキュメントの変更 \(23 ページ参照\)](#)
[End-to-End \(E2E\) Bookshelf \(23 ページ参照\)](#)

ドキュメントの変更

製品ドキュメントの各ガイドには、**Documentation Changes** ページがあります。それは、現在のリリースのためにアップデートされた題目を記載します。

End-to-End (E2E) Bookshelf

本リリースでは、製品に関する全ての情報を含む **E2E HTML Bookshelf** が提供されます。製品ドキュメンテーション、ナレッジベースの記事と製品の補足的手段のリンクが含まれています。

E2E Bookshelf 機能は、次の内容を提供します。

- 本リリースのすべてのマニュアルを表示する単一のヘルプ画面
- 単一のツールですべてのマニュアルを検索できるオールインワン システム
- **Bookshelf** の使用、**Acrobat Reader** のダウンロード、CA への問い合わせのための追加リンク

E2E Bookshelf にアクセスするには

1. .ISO image を展開して **DOCSETUP** フォルダーに移動します。

DOCSETUP フォルダーは **Bookshelf.zip** ファイルを含みます。

2. **Bookshelf.zip** ファイルを解凍します。

3. **Bookshelf.html** をクリックして **E2E bookshelf** にアクセスします。

注: CA 2E **Bookshelf.zip** ファイルを **CA Support Online** からダウンロードして展開することも可能です。.ZIP ファイルの内容を展開するために **WinZip** や **StuffIt** などのアーカイブプログラムを使用してください。そして、ローカルフォルダに内容を展開してください。展開した時点で、**Bookshelf** フォルダーを開いて **Bookshelf.html** ファイルをクリックしてください。

第 3 章: 公開修正

この章に記載されている問題の修正または更新が行われています。公開修正は、<http://ca.com/support> の Published Solutions からも確認することができます。
注: (CA 社内でのみ使用される) 8 桁の数字を持つ修正は、CA サポート オンラインでは公開されていません。

2E

C22E 14

Consider a scenario where two files with only a key field are created. An RTVOBJ fun is built over PHY ACP of the first file with no parameters. In the RTVOBJ's USER: Process Data record, call an RTVOBJ built over the RTV access path of second file with no parameters And a DLTOBJ built over the PHY access path of first file.

Call the RTVOBJ from an EXCEXTFUN generated in RPG IV. The program fails to compile with QRG4005 and QRG5132 errors.

C22E 77

When you select F17=Services option in a large model from the Edit Action Diagram screen on a function, the Action Diagram Services screen displays.

If you enter '?' on the find function name field and press enter key on this screen; it results in a model crash with the run unit error in YMSGACTF1I.

C22E 79

If user source code contains I Specifications, then RPGIV generated functions result in an RNF0257 compilation error.

C22E 142

When the EXIT FUNCTION DEFINITION panel was displayed for an EXCUSRPGM function and the "Submit generation" option on it, was set to "Y", the entry for the EXCUSRPGM was not added to the user joblist.

C22E 220

Sometimes, the Action Diagram load fails and then the model crashes when you attempt to zoom into the Action Diagram of a large/complex PRTFIL function by using the 'F' option. The following error messages display:

- Run-unit ended at nnnn in YGENRPTR1I.
- Run-unit ended at nnnn in YEXPACPR1I.

In addition, at times, the generation of the function might also fail.

C22E 404

When using CA 2E Triggers implemented using *DTAQ, the following error can occur:

CPF950A Storage limit exceeded for data queue YTRIGGERQ in *LIBL.

C22E 437

Consider a CA 2E model, which is integrated with Implementer, such that there is an integrity error for the model, involving Model Message Action File (YMSGACTRFP) and Model Message File (YMSGDTARFP). Within this model, if a function, having multiple versions (a production version which is "current", in addition to one or more development versions) and referencing the invalid records causing the integrity problems, is picked and a development version is selected for the processing, the resulting model object redirection, and the subsequent function checkout, fails.

C22E 447

YCPYMDLOBJ fails with the error "Run unit ended at 1905 in YPARDTAR1I" when copying message parameters objects from one model to another.

C22E 449

When an RTVOBJ function—

- Is built over the Physical file access path,
- Is copied from the *Templates file,
- The parameter of the function is defined by the physical file access path of the file.

The parameter fields lose their values for "Usage" and 'Role'. This bug is a result of the YC22E386 fix.

C22E 450

Upon redirection of a module, the References of a service program do not reflect this latest current version of the module. In addition, the usage of the current module does not display the service program.

C22E 453

A model crashed with a run-unit error when the following actions were performed:

1. Enter a file with access path as *None on the Edit Array Details screen of an array.
2. Select a field from the file in Edit Array Entries screen.
3. Press the function key "F7-Array keys".

An attempt to zoom into the parameter details of the file in the same array caused the model to crash with the same run-unit error.

C22E 454

When a function with object type MOD, was called conditionally from another function, the CALLB statement for this call, was generated before the corresponding stored conditions, leading to a "RNF5121" error during compilation.

C22E 455

ENTER processing for DSPPFIL, EDTFIL, SELRCD function types.

When the user does not make any changes, the Process Subfile Record processing is performed for every subfile record (including DB updates in an EDTFIL).

C22E 457

When upgrading a user model from an earlier version to the latest r8.6, the data area, YPRDRDRRFA is added to the model (as part of the model upgrade processing). However, the default value of the new data area in user model shows as *NO, whereas, it is *YES in the r8.6 null model. If the user model is running under CM, this default value of *NO does not allow the PRD versions of objects to be redirected when the YRDRMDLOBJ command is executed.

C22E 458

CA 2E generator program could generate a maximum of only 260 subroutines in RP4 programs. The maximum now is 360 subroutines.

C22E 459

Execution of YEXCMDLLST, using a user option, did not complete successfully.

C22E 460

YCRTWS did not handle the IBM limitation of maximum 7 parameters per procedure in an ILE service program (*SRVPGM) that was to be externalized as a Web Service.

C22E 461

The allowed values and help text for a few reason codes were not updated in the model usage or reference functionality.

C22E 462

After you created an EDTFIL/EDTRCD/EDTTRN function and changed the function option Create Record to "N". When you modify the action diagram of the Edit function to replace the default call to CHGOBJ DBF with CRTOBJ DBF, the following was the result:

- The usages of the CRTOBJ DBF displayed the Edit function with reason code as *DSLDBF even though the call to CRTOBJ was in the default user point of Change DBF record in the action diagram.
- The references of the Edit function erroneously displayed two records of CRTOBJ, both with reason code as *DSLDBF. Also, the Reason field on the "Display Model Usages" screen did not display the reason code as *DSLDBF.

Note: For more information about these changes, see the *Command Reference Guide*.

C22E 463

When an EXCUSRSRC function having one or more parameters is invoked from another function and the calling function is generated, the condition values are not substituted correctly leading to compilation errors such as RNF0267, RNF0312 and RNF0530. These errors occur under the following conditions:

- The generation language for the EXCUSRSRC is RP4.
- The EXCUSRSRC contains EVAL statements which use parameters of the EXCUSRSRC.
- Condition values of length greater than 6 (including quotes) are specified on the parameter mapping screen, at the time of the function call.

C22E 464

Consider a scenario where we have a *TEMPLATE function, such that it is not built over any access path, but, it in turn calls other *TEMPLATE functions, at least one of which is built over a valid *TEMPLATE access path.

When it is attempted to create a function over a normal file by copying the top level *TEMPLATE function, the copy ends with a "MCH3601" error that is encountered by the YDUPREFR1I program.

C22E 466

The display model usages command did not recognize the action diagram usages of DRV function field when it was used in an Action Diagram.

C22E 470

When generating SQL access paths containing SELECT/OMIT criteria, using codepage 273 (Germany)/codepage 1141 (Germany Euro), the NOT symbol, "(SM660000, Hex-'5F', in code page 37) is generated erroneously as the Circumflex symbol, "(SD150000, Hex-'5F', in code page 273/1141), leading to a compilation failure, with compile error SQL0104.

C22E 471

The allowed values and help text for a few reason codes were not updated in the model usage or reference functionality.

C22E 472

In a Japanese environment, some screens do not display text on certain screens in Japanese, but displays the upper-case English text.

C22E 475

Consider the scenario wherein

- An Internal or DBF Function contains a comparison for its Parameter with a CND value *BLANK,
- *BLANK is passed as a value for this parameter from its invoking function
- The generation language of the invoking function is CBL or CBI.

When it is attempted to compile the generated source of the invoking function, the compilation fails with an LBL1429 error (when generation language is CBL) or LNC1429 error (when generation language is CBI). This problem also occurs in the specific case of internal function being EXCUSRSRC and generation language RP4. In this case, the compilation fails with an RNF7421 error.

C22E 476

When a user displays Model usages (YDSPMDLUSG) for a Field; enters *EXTFUN for the Scope and Filter parameters; the processing becomes slow when executed on large Models.

C22E 477

When the source member name of a DDS access path is changed, a record is written to the model file YACPAUXRFP.

If the access path was promoted using CM, the auxiliary from YACPAUXRFP was also added to the model list and this caused problems in the promotion because the access path was not SQL.

C22E 478

When you copy messages from a source model to a target model using the YCPYMDLOBJ command, for messages which do not have a second-level text, only the model message definitions are copied to the target model. However, the corresponding message id's are not copied to the default message file of the target model.

C22E 479

When the figurative constant *ZERO is used as a "parameter" to a function or built-in-function, upon subsequent generation, the generated code for *ZERO varies, depending on the release and generation language.

Note: When *ZERO is used in a "comparison" statement within a function, upon subsequent generation, the code is generated correctly.

C22E 488

When code is copied from one User Point to another, within the Action Diagram of a function, using the "Notepad Insert", "Copy" or "Move" operations, context errors might be introduced, based on available contexts in the target User Point. When you attempt to generate and compile such a function, the generation and compilation go through successfully, in spite of the context errors.

C22E 490

Consider a scenario, where you have a *TEMPLATE function, which is not built over any access path; but has at least one parameter that is based on any access path over the *TEMPLATE file. When you attempt to create a function over a user file by copying this *TEMPLATE function, the copy ends with a "MCH3601" error that is encountered by the YDUPREFR1I program.

C22E 491

Binding procedures from an EXCUSRPGM module that contains multiple exported procedures into a service program fails to bind more than one procedure.

C22E 493

Consider a scenario wherein you work with a synchronized model and a new relation is added to a user file.

Without resynchronizing the model, when you attempt to create a new function on this user file by copying a *TEMPLATE function having "*Template key defn" and/or "*Template record defn" as parameters, irrespective of the access path on which this *TEMPLATE function is built, the copy ends with a "YYY0101" error.

C22E 495

When you execute the YRTVMDLOBJ command for an object that has all the date fields populated with the value 0 or blank, the object returns junk characters for the date fields.

C22E 497

Sometimes, the F7=Find feature for names (like function file name, function name, field name) within the Action Diagram Services panel incorrectly encounters an error when a valid name is entered.

Example:

Find field name - 'No field of specified name exists' (Y2V0363).

These errors occur for certain characters within certain non-English code pages. This problem was originally reported for the Katakana character 0xAD within the code page 290.

C22E 498

Consider a scenario where a File Level Customization is applied to a function through the EDIT FUNCTION DEVICES screen and the function is saved on exit. Upon reentry into the function device design, the previously saved File Level Customization is lost.

C22E 501

Incorrect code is generated for COBOL SQL CHGOBJ functions when specifying the Null Update Suppression feature.

C22E 502

The following two messages appear unnecessarily in the job log:

- Value for parameter MSGID not a valid name. CPD0078 Sev 30
- Error found on ADDMSGD command. CPD000 Sev 30

C22E 503

Sometimes, the following generation error message occurs unnecessarily when interactively generating a function ('G' from the EDIT FUNCTIONS panel), and the subfile select field is being highlighted.

Function did not generate successfully. Y2V0183 Sev 30

This generation error message also occurs unnecessarily when you enter 'J' to submit generation to batch. The generation status results as *ERROR within the SUBMIT GENERATIONS & CREATES panel. Subsequently, when you enter 'C' to request CRT, the generated function is created successfully.

C22E 504

Sometimes, during interactive generation ('G') of a function, user is kicked out of the Model due to a Decimal Data Error (MCH1202).

C22E 505

SQL Indexes are being created without a description.

C22E 506

Sometimes, the Action Diagram editor for the *MOVE ARRAY built-in function incorrectly issues an error, when a valid field name is entered using the correct case.

Example:

'Z_HLER' type FLD not found.' (Y2V0101).

These errors occur for certain characters within certain non-English code pages. For example, this problem was originally reported for the German characters 0x6A, 0xC0 and 0xD0 within the code page 273.

C22E 508

The RPG/RP4 compile failures occur when:

- The Prompt Message File (YPMTMSF) model value is longer than 8 characters
- A screen text constant (within a subfile record) had been specified to generate a message ID.

C22E 510

Consider a scenario where an EXCUSRSRC function having one or more parameters is invoked from another function, under the following conditions:

- The generation language for the EXCUSRSRC is RP4.
- The EXCUSRSRC contains CAT statements, which use parameters of the EXCUSRSRC.
- CONstant values of a length greater than 6 (including quotes) - long constants, are specified on the parameter mapping screen at the time of the function call.

Upon generation of the calling function, these CONstant values are not substituted correctly, leading to compilation errors such as RNF0289, RNF5157 on a subsequent compilation.

C22E 511

Consider a scenario where you have an RP4 EXCUSRSRC function containing fixed-format statements along with comments starting from position 81.

When the fields in the EXCUSRSRC are substituted during generation, the comments are not placed correctly. When you compile the function that invokes the EXCUSRSRC, the compilation fails with the RNF5377 errors.

C22E 512

When utilizing the Wrapping feature for an extremely large User Point, the 16-MB memory limitation is being exceeded, thus, encountering the MCH2804 error ("Tried to go larger than storage limit for object &1.").

Modifications are made to reduce the memory allocation. However, it is still possible for an even larger User Point to encounter the MCH2804 error.

Note: We recommend that the user exits the Model after wrapping a large User Point so that the excessive memory allocation is properly freed.

C22E 513

Defining Element Customization for a Constant on a screen design is not possible. On a CONstant field, when you attempt to add element customization, the following error displays preventing you from adding customizations:

Y2I1039 - "Element 'CON' not currently on screen"

Though element customization is for the Web Option, the programs that require modification are in 2E. Therefore, a C22E problem is created.

C22E 514

Sometimes, the SQL CHGOBJ Functions incorrectly report an error when specifying the Null Update Suppression feature.

Such incorrect reporting of an error occurs when an SQL CHGOBJ function includes a CHGOBJ/CRTOBJ/DLTOBJ that was being called within the 'USER: Processing before Data update' user point and the database operation fails (which causes Indicator 91 to be set-on).

C22E 515

The SQL Table Generator truncates 'LABEL ON' field description to 20 characters.

C22E 516

When a field is required (Allow blank = ' ' or Allow zero = ' ') and a 'controlling condition' had been specified within the EDIT SCREEN FIELD ATTRIBUTES panel to convert an Input field to Output (or non-display), a "Value required" message is sent even though the Output (or non-display) field is conditioned not to allow any input.

C22E 517

The following COBOL generation errors occur at statement 996 within YCBLCSRK1I.

MCH1210 ('Receiver value too small to hold result.')

These errors occur when using Test Cursor logic.

Example:

```
.-CASE
-PGM.*Cursor field <IS> DTL.C001
'-ENDCASE
    Context.Field . . . : PGM *Cursor field
    Condition . . . . . :
        OR
    Comparison. . . . . : IS
    Context.Field . . . : DTL C001
```

C22E 520

When generating a Function that includes Device User Source (DUS), the DDS Generator incorrectly issues the following offset error:

"E* Y2V0709 - Offset error occurs for updating string.".

This DDS Generation error occurs when the DUS specifies an UPDATE merger command with the COLUMN parameter along with a lengthy BY parameter 'updating text' value.

Example:

```
) FIND TEXT=TEXT
) UPDATE S='TEXT' C=45 BY='TEXT("1234567890123456789012345678")'
```

Note: Within the DUS, short parameter names are allowed.

Example:

```
SUBSTRING or S
COLUMN or C
```

C22E 521

When a function with Device User Source (DUS), attached at the screen-/report-level or format-level is copied to a different file, the copied function is created with the DUS incorrectly attached at the device-level.

Copying Functions That Contain Attached Device User Source - Device-level
device user source is always copied. When a different file has been specified, only the device-level device user source is copied.

Screen, report, and format level device user source is copied unless the corresponding entity in the target function is excluded due to a change of function type or due to a change of file. Entry-level device user source is copied unless the corresponding entry in the target function is excluded due to an access path change or a file change.

C22E 523

The RPG/RP4 functions that include the *RTVFLDINF (Retrieve Field Information) built-in function, has the corresponding @CN compile-time array entry generated with a four-digit index.

This generation is inconsistent with other built-in functions.

Example:

The RPG/RP4 functions that include the *MOVE built-in function, have the corresponding @CN compile-time array entry generated with a five-digit index.

In addition, at times, a @CN entry generated for the *RTVFLDINF built-in function can have a spurious character following the four-digit index.

Modifications have been made to generate a five-digit index for the *RTVFLDINF built-in function's corresponding @CN entry.

Before Generator Modifications	After Generator Modifications
-----	-----
** @CN	** @CN
00001 ABCDEFGHIJ <--- *MOVE ---->	00001 ABCDEFGHIJ
0002& Customer-Name <- *RTVFLDINF ->	00002 Customer-Name
0003 1234567890 <--- *MOVE ---->	00003 1234567890
0004 STS Long Text <- *RTVFLDINF ->	00004 STS Long Text

C22E 524

Within a 2E Model, surrogate values are allocated from records within the YLSTSGTNXP file:

- The first record is used for high-order surrogate allocation.
- The second record is used for low-order surrogate allocation.
- The third record was previously used for a now unsupported feature.

The end-users using legacy Models with hundreds of concurrent users (*DSNR/*PGMR/*USER) are allocating thousands of high orders surrogates every day, causing them to approach the maximum value allowed prematurely.

Modifications are made to do Session surrogate allocation utilizing the third record within the YLSTSGTNXP file.

C22E 530

At times, when executing the YCHKMDL command with ACTION(*UPDATE), a decimal data error (MCH1202) occurs at statement 438 within the YCHKMDLL1I program.

C22E 532

The generation of RPG Functions with a parameter 'Passed' as RCD/KEY that exceeds 9999 characters in length, encounters "FIXEDOVERFLOW at statement nnnn in YDCLPARG1I. ONCODE 310." (PLI0600) errors.

Interactive ('G') generations cause the users to log off the Model when encounters this error.

C22E 535

The YCHKMDL (Check Model) command provides for the ACTION parameter to be *ANALYZE, *PREPASS, or *UPDATE.

Object Table User Spaces (*USRSPC) were incorrectly being deleted when *PREPASS mode had been specified. Modifications have been made to only delete the Model's *USRSPC(s) when *UPDATE mode has been specified.

Moreover, when a Model contained multiple Object Table User Spaces (*USRSPC), only up to two of the *USRSPCs were being deleted. Modifications have been made within the YCHKMDL command to execute the YDLTOBJTBL (Delete Object Table User Space) command so that any/all of the Model's *USRSPC(s) are deleted when *UPDATE mode has been specified.

C22E 537

The default tab sequencing moves from left-to-right then top-to-bottom. Within CA 2E, you can choose to override the tab sequencing movement to be more of a top-down design by specifying 'Tab seq' numbers within the device design.

Tab sequencing (Cursor Progression) is implemented within the generated DDS through the FLDCSRPRG keyword for non-subfile fields; while the SFLCSRPRG keyword is generated for subfile fields.

Modifications are made to the DDS Generators for the FLDCSRPRG Keyword. In some cases, adjustment to 'Tab seq' number(s) are required to maintain previously generated results.

We recommend you to specify two (or more) 'Tab Seq' numbers. Each 'Tab seq' number pair acts as a link -> (forward tab) and <- (backward tab).

C22E 538

Certain source members were generated incorrectly by not including the CA 2E release number within the header section of the source.

Modifications are made so that all types of source members are now being generated to include the CA 2E release number within their corresponding header.

Example:

Before -> H* Generated by CA 2E release 2E (1547)

After -> H* Generated by CA 2E release 8.6 (1547)

CA 2E TOOLKIT

C21E 26

The Edit Library List Entries (YEDTLIBLST) command encounters a CPD0074 ('Value 'xxxxxxxxx' for LIBL exceeds ten characters.') error within the "Exit Edit Library List Entries" panel when a ten character library name is specified at or after Sequence 0460 (while one or more libraries are also sequenced after the ten character library name).

C21E 54

The YWRKF command on the RTV access path of a file fails with decimal data error when a key is larger than 40-bytes length in the first 120 bytes of the total key length.

C21E 55

The YRTVOBJLIB command did not return correct results under the following scenarios:

- When searching for particular source member in a source physical file, the correct library was not returned, when another library having the same source physical file was present above the correct library in the library list.
- When multiple invocations of the command were carried out in the same program, each invocation was not running independently. The result that was returned was dependent on the earlier invocation and thereby incorrect in some cases.

C21E 61

The DBCS data is not updated with YWRKF Update. The YVL0005 error message displays and the program run can only be run in the Hex mode.

C21E 65

Consider a scenario when you have to compile multiple functions having Z*(compilation override) and/or Y*(pre/post compilation) directives. When they are compiled individually, directives are processed in the correct order. However, when you compile them in a single job, such that at least one of the preceding components has Z* directives in them. Hence, during the compilation of later components, any pre-compilation Y* directives are treated as post-compilation Y* directives and are incorrectly processed after Z* directives, which leads to compilation failures.

This problem is experienced when using YEXCOVR/YCRTOBJ for submitting compilations.

C21E 67

When you attempt to compile a function having an OVRDBF precompilation directive (example, a function that is built on a QRY access path) using YEXCOVR in batch mode, such that OVRDBF is necessary for successful compilation of the function, the OVRDBF is not executed properly leading to compilation failure.

C21E 70

The YWRKF does not display data for a file, which has any of its key field with Timestamp data type.

Web Option

We completed the following fixes, corrections, or updates for the CA 2E Web Option:

C2WEB 241

When you attempt to generate the HTML of a function from within the EDIT FUNCTION DETAILS panel, the generation is not successful and the error message displays:

W2G1046(Function is locked panel)

C2WEB 242

Using the YW2EJOBX API we can identify that a running job is a Web Option related job. But the API did not identify the job correctly when Web Option associated with the job and the YW2EJOBX API did not belong to the same release.

C2WEB 244

When a LST condition has multiple VAL options which have varying number of leading spaces, the LST condition is not identified correctly at runtime. Instead, the specific VAL option that is being used, is displayed at runtime.

C2WEB 249

When a customization is applied to "DATE" fields on a screen, the HTML generation process fails to recognize the customization.

C2WEB 252

When an element customization is longer than 222 characters, only the first 222 characters are written into the HTML file and rest are truncated.

C2WEB 253

Consider a scenario wherein a function has a 27*132 screen and a long screen constant (length greater than 80 characters) is defined in it. When the HTML of this function is generated, it leads to the following errors:

- a. The function keys are generated with the incorrect text on the buttons.
- b. The long screen constant might not be visible in the generated HTML.

C2WEB 254

Web Option is potentially vulnerable to unauthenticated privilege escalation due to a predictable session token. With predicted token, you can possibly access the details of another active session.

The relevant vulnerability is announced with a CVE identifier, CVE-2014-1219.

第 4 章: 既知の問題

この章は r8.7 の既知の問題が記載されています。

2E

Select Record ファンクションのコンパイルの問題

仮想フィールドが *SQL または *DDL の生成方法に、さらに*TABLE のデータ・アクセス方式に使用される場合、Select Record 機能はコンパイルされません。

CBI ファンクションのコンパイルの失敗

Select/Omit 基準が指定される場合、DSPFIL、SELRCD と EDTFIL CBI ファンクションはコンパイルに失敗します。

SQL テーブルのコピー処理の問題

SQL テーブルのコピー処理は失敗します。YCPYLIB と YOLDLIB の処理をセットアップし、アクセスパス (*SQL または *DDL) を再生成/再構築する場合、データはコピーされません。

DDL/SQL へ移行する場合のトリガーの喪失

1. トリガーが実装される物理ファイルがモデル値 **YGENLIB** で示される生成ライブラリーに存在する場合のみ、トリガーはサポートされます。
2. データベースを **DDS** から **DDL** または **SQL** に変換する場合、アクセス・パス・オブジェクトはモデル値 **YSQLLIB** で示された **SQL** コレクション・ライブラリーに再作成されます。しかしながら、トリガー処理アルゴリズムの制限のため、トリガー機能はモデル値 **YGENLIB** で示された生成ライブラリーに存在するアクセス・パスでのみ実装が可能です。したがって、**DDL** から **DDL** または **SQL** へデータベースを変換する場合、トリガーの実装は失敗します。そして、**SQL** コレクション・ライブラリーは生成ライブラリーと異なります。

以下の記述はデータベースを **DDS** から **DDL/SQL** に変換後にトリガー機能が働くために行わなければならない手順です。

1. **DDL** または **SQL** のアクセス・パスを再生成する前に **SQL** コレクション・ライブラリーと生成ライブラリーが同じ（モデル値 **YSQLLIB** と **YGENLIB** が同じ値）であることを確認してください。これは、元の **DDS** ベースのアクセス・パスが存在した同じライブラリーに **DDL/SQL** タイプのアクセス・パス・オブジェクトが再作成されることを確実にします。
2. データベースを **DDL** または **SQL** に変換後、コマンド **YWRKTRGREF** を使用し、さらにオプション **4=削除** を選択することによってトリガーの参照を削除してください。
3. コマンド **YCVTTRGDTA** を再実行してください。

Web Option

Windows 版 Safari—F5 キーふるまい

Web オプションは **F5** キーのための **Safari** のデフォルト・リフレッシュを抑制しません。

Web オプション 実行時にキーボードで **F5** を押下する場合、以下のメッセージがダイアログで開かれます。

“Are you sure you want to send a form again? To reopen this page Safari must resend a form. This might result in duplicate purchases, comments, or other actions.”

F5 キーを使用しないことを推奨しています。

しかし、それが不注意に押下される場合ダイアログボックスで **Cancel** オプションを選択してください。

Internet Explorer, Chrome, Firefox—F5 キーふるまい

カーソルがブラウザのアドレスバーにあるときに F5 キーを押下する場合、Web オプションは Internet Explorer (IE)、Firefox、と Chrome のデフォルト・リフレッシュを抑制しません。

以下のいずれかのブラウザでカーソルがブラウザのアドレスバーにあるときに F5 キーを押下する場合、以下のメッセージがダイアログで開かれます。

Firefox:

"To display this page, Firefox must send information that will repeat any action (such as a search or order confirmation) that was performed earlier."

Chrome:

"The page that you are looking for used information that you entered. Returning to that page might cause any action that you took to be repeated. Do you want to continue?"

IE:

"To display the webpage again, the web browser needs to resend the information you've previously submitted. If you were making a purchase, you should Cancel to avoid a duplicate transaction. Otherwise, click Retry to display the webpage again."

しかし、それが不注意に押下される場合は、ダイアログボックスで Cancel オプションを選択してください。

スケルトンが存在する場合の JIT の表示

Web オプションで、画面に対するスケルトンが事前に生成されていたとしても、特定の条件下で Just-In-Time (JIT) ページが表示されてしまう問題が確認されています。この現象は、ウインドウ タイプのファンクションで、画面の表示時に確認プロンプトも表示されるような場合に発生します。

これは、Web オプションが自身のウインドウ内に確認プロンプトが表示されていることは判定できても、背後のウインドウの必要な情報、例えば、元ウインドウのオフセットや属性など、フィールド オフセットを処理するために必要とされる詳細を取得できないためです。

この問題を回避するには、次の 2 つの方法をご検討ください。

- ウィンドウ ファンクションでは、確認プロンプトの表示は、常に実行キーなどのコマンド キーを押すことによってのみ表示されるように変更する。
- この問題は、フルスクリーンのファンクションには影響しないため、ウィンドウ ファンクションをフルスクリーン ファンクションに変更する。

注: もし、ウィンドウ ファンクションが JIT モードで表示されたとしても、それは確認プロンプトが表示されている間だけになります。そのファンクションが確認プロンプトがない状態で表示されるときに、生成されたスケルトンが使用されます。ファンクションが JIT モードで表示された場合、通常のアプリケーション機能は保持されますが、ドロップダウン リストなどの生成されたスケルトン固有の機能は利用できません。

HTML Bookshelf 検索結果

HTML bookshelf で検索を実行した際、PDF ファイルの検査結果の下に不正な HTML コードが表示されます。これは、索引作成ツールの既知の問題ですが、検索結果や個々のガイドへのリンクには影響しません。